

宮崎における 第三者承継への取組



宮崎県新規就農相談センター
【総合窓口：（公社）宮崎県農業振興公社】

令和5年度
農業経営者総合サポート事業

農業用ハウスの移設：促成ミニトマト

就農準備資金、宮崎県農業担い手確保・育成基金活用

美郷町



くろぎ りょうた
黒木 諒太氏
プロフィール

- 宮崎県出身、27歳、農家出身、元会社員
- ・令和3年7月から令和4年6月までみやざき農業実践塾で施設ミニトマトの栽培、技術習得のための研修を受ける

■ 就農のきっかけ・承継の経緯

実家が農家なのでいずれは、親の後を継ぐことを決めていたが、家族から農業で生計を立てて行くことは厳しいと言われ、一旦は県内の会社に就職するも、農業に対する想いは変わらず持ち続けていた。

そんな時、出身地である美郷町がきんかんとトマトでの就農に対し手厚い支援を行っていることを知り、就農相談を経て、みやざき農業実践塾に入塾した。

研修中に、JA日向トレーニングセンター職員からの紹介で知り合った美郷町野菜部会長の田村勝幸氏より、中古ハウスの情報が提供され、そのハウスを承継することになり、令和4年12月に就農した。

■ 承継された施設等

施設の種類：中期展張強化ハウス2号型（2,609㎡）
農地：賃借（4,355㎡）

■ 物件の移譲と価格の決定

物件は、全て売買。価格は、先輩農家の意見を参考に相対で決定。

■ 黒木氏から見る承継のポイント

- ・関係機関からの就農に対する支援が円滑に行われたこと。
- ・先輩農家である田村野菜部会長から、栽培技術の指導から施設のことまで世話してもらったこと。
- ・就農後もアドバイスをもらい安心して経営に打ち込めていること。
- ・地域の方や土木関係に従事する知人から技術と労力を提供してもらったので、ハウスの移設費用も安く抑えられ、スムーズに工事を行うことができたこと。



畜産施設の居抜き：和牛繁殖

西都市



おかもと しょう
岡本 翔氏
プロフィール

- 宮崎県出身、37歳、非農家、元準公務員
- ・令和2年6月から令和3年6月までJA西都キャトルセンターに務める
- ・令和3年7月から令和4年6月まで和牛繁殖農家のもとで飼養管理を学ぶ

■ 就農のきっかけ・承継の経緯

動物が好きで畜産業に目が向くようになり、JA西都の職員に相談し、キャトルセンターの従業員として働くことになる。JAや普及センターで独立自営就農を視野に相談を進める中、後継者を探していた和牛繁殖農家の黒木裕一氏と出会い、黒木氏のもとで和牛繁殖経営について学んだ。

黒木氏からは技術指導以外にも、粗飼料を作るための農地の確保や作業の合間に機械設備の整備を行うなど、経営開始に必要な準備を率先して進めてもらった。

令和4年7月に黒木氏の経営を引継ぎ、就農した。

■ 承継された施設等

施設の種類：牛舎（敷地も併せて賃借）、
農機具等一式
成牛、子牛（計50頭）
農地：賃借（6,000㎡）

■ 物件の移譲と価格の決定

牛舎、土地は、賃貸借、牛、農機具等一式は、売買。賃料（牛舎）の積算は、JAキャトルセンターの預託事業を参考。牛は、JA職員による査定により決定。農機具等は、簿価等を基に相対で価格を決定。

■ 岡本氏から見る承継のポイント

- ・出し手との人間関係を上手く構築すること（牛舎と出し手の自宅が近いので、良好な関係を維持して行くことが重要）。
- ・経験豊富な黒木氏が、常に相談に乗ってくれること。
- ・牛や機械のトラブルが発生した時は、いつでも黒木氏が駆けつけてくれること。



農業用ハウスの移設：促成きゅうり

就農準備資金、宮崎県農業担い手確保・育成基金活用

都城市



おおoura ともゆき
大浦 奉文氏
プロフィール

- 宮崎県出身、46歳、非農家、元会社員
- ・令和3年8月から令和4年7月まで JA都城の新規就農者確保・育成・支援事業を活用し、施設きゅうりの先進農家のもとで栽培技術の研修を受ける

■ 就農のきっかけ・承継の経緯

農業の事は全くわからなかったが、頑張った分だけ自分の所得が増える等のやりがいのある仕事に就きたいと思い就農を決意した。

JA都城の研修制度を活用して先進農家のもとで技術研修を行い、JAの生産部会にも加入した。その生産部会で知り合った農家より空きハウスを紹介され、承継することとなった。ハウスは、自宅近くの農地に移設し、補修や付帯施設の整備を行い令和4年12月に就農した。

■ 承継された施設等

施設の種類:APハウス2号改良型 (1,960㎡)
農地：賃借 (2,700㎡)

■ 物件の移譲と価格の決定

物件は売買。JAや生産部会の農家から参考価格について助言をもらい、相対で決定。

■ 大浦氏から見る承継のポイント

- ・JAや生産部会等に知り合いを作り、アドバイスを受けたこと。
- ・人脈を持ったことにより、就農に必要な準備や物件の相場情報等を得ることができたこと。
- ・新規就農者には多くの困難が待ち受けているので、「やってやる」という強い意思を持ち取り組んだこと。



農業用ハウスの居抜き：促成ピーマン

就農準備資金活用

新富町



たかみ しんご
鷹美 真吾氏
さおり
沙織氏
プロフィール

- 真吾氏：宮崎県出身、49歳、祖父母が兼業農家、元会社員
- 沙織氏：宮崎県出身、45歳、非農家、元会社員
- ・令和4年7月から令和5年6月まで みやざき農業実践塾で施設ピーマンの栽培技術の研修を受ける

■ 就農のきっかけ・承継の経緯

夫婦で会社勤めをしていたが、1年早く妻が退職し、農家でミニトマトの手伝いを経験したことから、夫婦とも農業を始めたいという気持ちが強くなった。家族での話し合いや関係機関への相談を重ね、真吾氏も会社を退職し、夫婦でみやざき農業実践塾に入塾した。

研修中に新富町を介して居抜きのハウス情報が提供され、そのハウスを承継することになり、令和5年9月に就農した。

■ 承継された施設等

施設の種類:APハウス2号改良型 (1,920㎡)、
倉庫作業所
農地：賃借 (2,500㎡)

■ 物件の移譲と価格の決定

物件は全て売買。価格は、新富町の担当者が出し手と交渉し、相対で決定。

■ 鷹美氏から見る承継のポイント

- ・町、JA、普及センター等の関係機関に早めに相談したことにより、手厚い支援が受けられたこと。
- ・ある程度の手持ち資金を確保していたことにより、就農時の物価高の影響にも対応できたこと（想定以上の支出が発生するので、農業に必要なお金と生活に必要なお金の計画をしっかりと立てておくことが重要）。



宮崎県スタンバイ農地事業を活用した事業承継の取組

就農準備資金活用 国富町



こたに あきふみ

小谷 晃史氏

プロフィール

- 宮崎県出身、34歳、非農家、元自営業
- ・令和5年7月から令和6年6月 みやざき農業実践塾で技術、栽培の研修中
- ・令和6年7月 ハウスを居抜きで承継し、就農予定

■ 就農、承継のきっかけ

受け手 小谷晃史氏 国富町就農予定

兄が農家で働き始めたことに刺激を受け自分も農業に興味を持つようになり、施設きゅうり栽培での独立自営就農を目指して、「みやざき農業実践塾」で研修を始めることを決めた。

出し手 杉尾二七三氏（71歳）宮崎県国富町在住

53年に渡って夫婦で施設きゅうりを栽培。高齢をきっかけに令和5年7月にきゅうり栽培の引退を決断。高額な投資をしてハウスを取得している新規就農者がいることを知り、まだ利用可能な自分のハウスを少しでも活用してもらいたいという想いから家族に同意をもらい、関係機関へ広く情報提供を行った。

■ 承継の経緯

杉尾氏からの情報提供を受け、県立農業大学校就農コーディネーターの西岡氏が二人の間に入りマッチングを行い、承継に関する交渉が成立した。

小谷氏は就農する予定の農地の目途はついたものの、その時点ではまだ研修中であり、就農まで半年ほどの時間を要することから農地がある国富町と公社が間に入り、宮崎県スタンバイ農地事業を活用し支援することとなった。

なお小谷氏は、当面農地の賃借（農地中間管理事業）により営農を開始する予定であるが、経営安定した後に杉尾氏の農地を取得する予定である。



杉尾氏から承継されるハウスと倉庫等



耕耘等の保全管理がされた農地

■ 承継予定の施設・機械等

農地、施設の種類:農地3,460㎡（田）
APハウス（2,688㎡）、倉庫作業所、堆肥舎、動力噴霧器等
その他農機具、きゅうり生産資材一式 等。

■ 今回の取組ポイント

- ・出し手の杉尾氏自ら、関係機関に相談をし、広く情報提供を行ったこと。
- ・杉尾氏の受け手に対する配慮（引き渡しまでは、保全管理に取り組む気持ち）。
- ・受け手の小谷氏が事業承継に向けた心構えが出来ていたこと。
- ・関係機関の事業承継に向けた支援が円滑に行われたこと。
- ・承継の前段で宮崎県スタンバイ農地事業を活用したこと。



小谷氏と就農コーディネーターの西岡博幸氏

■ 承継の当事者から一言

(小谷氏)

- ・ 杉尾氏と出会い、親切丁寧にいろいろと教えていただく中、国富町への移住を決意した。これからも助言をいただきながら、早く一人前の農家になれるよう頑張りたい。

(杉尾氏)

- ・ 50年以上施設園芸をしてきたが、家族と相談し、きゅうり栽培の引退を決意した。これまで自分の生活を支えてくれた施設が今後も活用されることはうれしい。事業を継いでいただいた小谷氏の活躍を期待したい。

担い手対策と連動した農地中間管理事業の推進

スタンバイ農地の概要

将来の地域農業を支える新たな担い手※1が、農地を速やかに利用できるように、農地中間管理機構と市町村推進チーム等が連携し、予め農地を用意（機構が中間保有し、農地として保全管理）しておく新たな仕組み。

※1 新たな担い手＝新規就農者、経営開始5年以内の認定農業者など
(地域計画で農業を担う者として位置づけ又は見込みがあること)



※2 補足

✓ 詳細は機構の要領等を参照。

✓ 借賃等は地域の情勢を踏まえ、所有者と協議の上、決定。

✓ 期間は中間管理権を取得して2年以内。

✓ ハウス、樹木など地上物は所有者等が管理。

就農・参入希望者
研修中

農地
スタンバイ

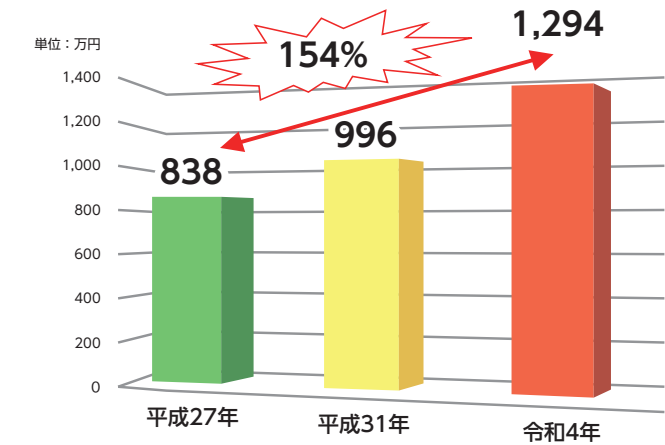
営農開始



宮崎における第三者承継の現状

農業用施設の取得等における情勢

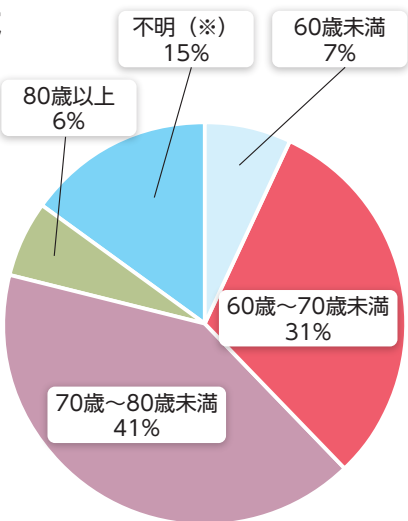
【ハウス新設価格の状況（万円／10a）】
A P ハウス2号改良型価格の推移
 ※本体と付帯設備（自動開閉、水廻り、加温機等）、施工費を含む。



出し手の状況

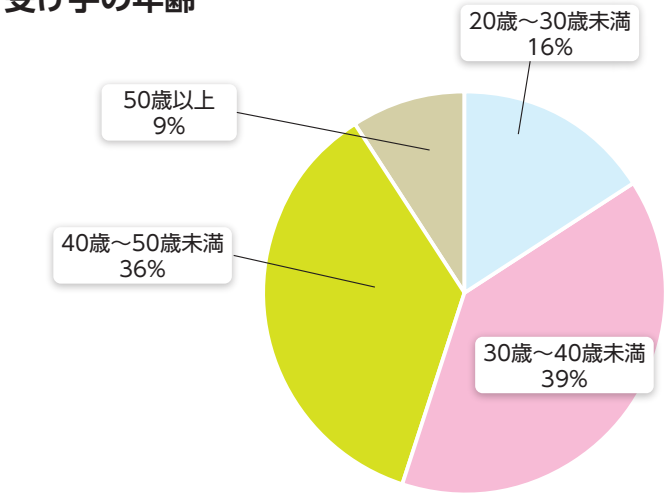
出し手の年齢構成

～離農した主な理由～
 1位…高齢
 2位…病気
 3位…廃業（※）
 4位…経営主の死亡
 ～事例調査にて感じた事～
 「農家は、生涯現役」と言われてきたが、体力面や病気を理由に、規模縮小を早めに始める農家を目にする様になった（離農に向けた準備）。
 ※後継者が不在、借金の清算によるものを含む

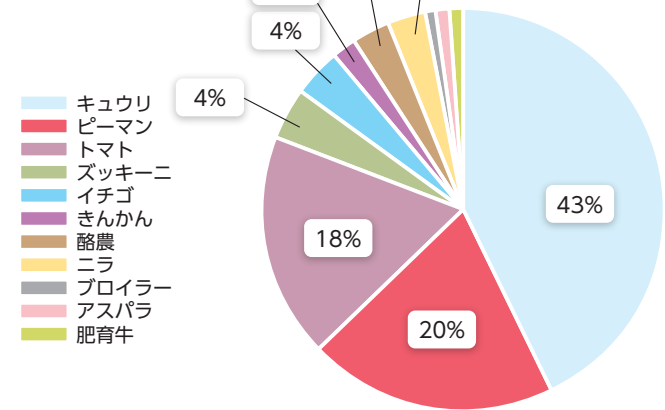


受け手の状況

受け手の年齢

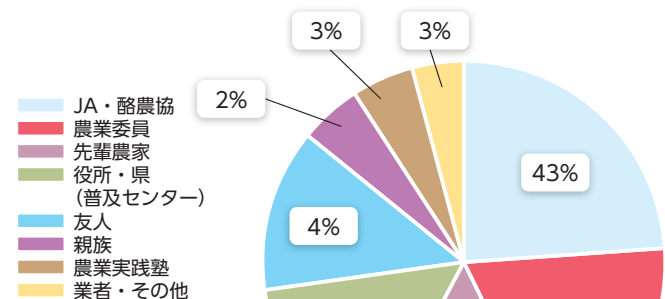


受け手の品目



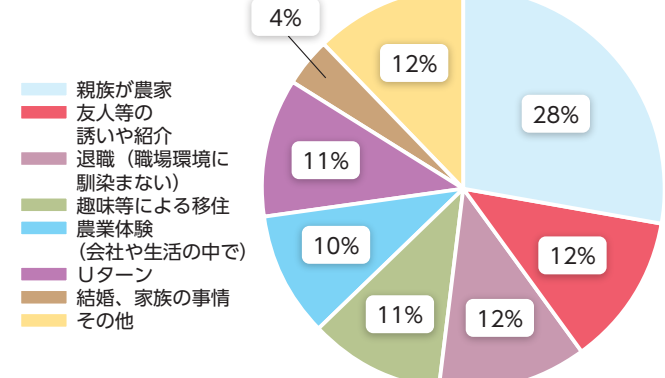
承継事例調査を行った農家の経営品目については、出し手、受けて共に宮崎県の主力品目3つ（きゅうり、ピーマン、トマト）が上位を独占。近年の著しい情勢変化により新規就農者は、青年等就農計画の見通しが立ちやすい、きゅうりを経営品目として選択する傾向。

承継を支援する「橋渡し役の状況」



【承継における橋渡し役とは】
 ・出し手と受け手の双方から信頼が得られる人
 ・承継の当事者の身近にいて、長期に渡って支援が出来る人

就農のきっかけ



～就農前の職業～
 1位…県内企業の会社員
 2位…県外企業の会社員（U、Iターン）
 3位…公務員（自衛隊、教員など）

～就農のきっかけ～
 親族や友人等からの誘いで農業を始める方が多い一方、結婚や子どもの成長といった家庭環境の変化が決め手となるケースもよくある（受け手の既婚率は、約60%）。また、近年は、趣味の充実（多様化する生活スタイル）や人間関係の悩み等により、Uターンや移住を決断し、その過程で農業を選択する方も増加傾向。

事業承継についての疑問やお悩みは、お気軽に相談ください。

専門家を活用した承継を円滑に進めるための取組

承継の手続を進める過程では、当事者や地域の関係機関が協力しても対応できない課題の発生が想定されます。特に承継の初期段階は、ある程度の方向性やスケジュールを支援する関係機関が計画を立てた上で取り組まないと後々、軌道修正が難しくなる可能性があります。

これらの課題の解決（前さばき）や地域での承継への取組を支援するために、宮崎県農業振興公社より「承継の専門家」を派遣する体制を整えています（令和4年度より派遣を実施）。

<専門家の役割>

- ・ 承継相談（課題解決に向けた取組や必要な手続に関する助言指導）
- ・ 研修会講師（承継に関する知識を身につけるための講演）

公社が派遣する「承継の専門家」

プロフィール
株式会社 ケミストリー
むらかみ かずゆき
代表取締役社長 **村上 一幸氏**
1958年北海道生まれ。
ビジネスマネージメントコンサルタント。
農業の特性に適した支援で経営全般や経営継承、事業継続計画に力を注がれている。

<県内での派遣実績(令和5年度)>

- ・ 承継相談会
2回（うち1回、リモート）
【北諸県地域】
- ・ 承継に関する研修会
7回（農業者、関係機関担当者参集）
【県、西諸県地域、南那珂地域、児湯地域、東臼杵南部地域】



リモートによる個別相談会の様子
（北諸県農業改良普及センター管内 講師：村上一幸氏）

経営課題の解決に関する相談

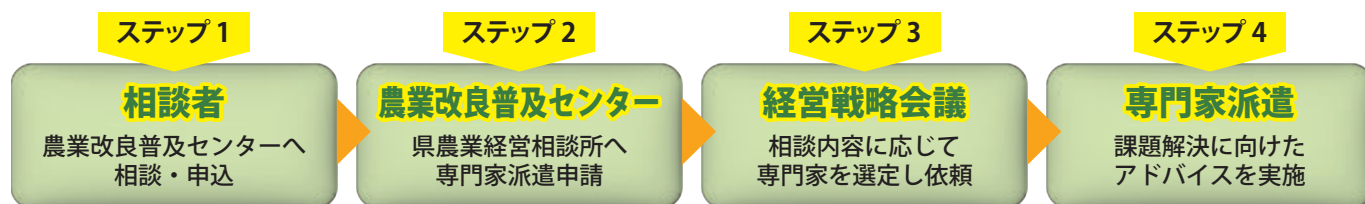
○宮崎県農業経営相談所



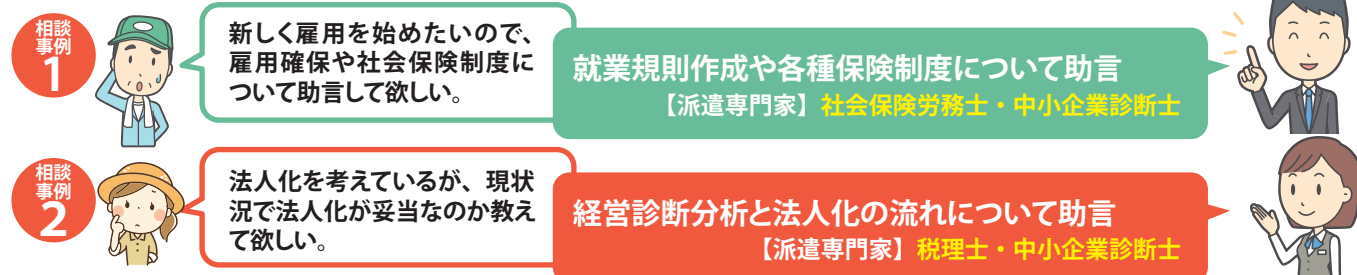
宮崎県農業経営相談所では、農業経営者の抱える様々な経営課題に対して、中小企業診断士や社会保険労務士、税理士など各種専門家を派遣し、無料の相談対応により、個人から法人まで各農業経営者の皆様の経営課題の解決を目指した支援を行っています。

まずは、お気軽にお近くの農業改良普及センターまでご相談ください。

相談から専門家派遣までの流れ



相談事例と支援の内容



上記相談内容以外にも、各種専門家がいますので、是非、御利用ください。詳細は右記の2次元コードから御確認ください▶

〈問合せ先〉 宮崎県農業経営相談所（宮崎県農業再生協議会） TEL：0985-31-2030



宮崎県の事業承継相談窓口（地区就農相談センター）

地 域	市町村窓口		県窓口（西臼杵支庁、農林振興局）			宮崎県農業協同組合※	
	名 称	担当課名	名 称	担当課名	TEL	名 称	担当課名
中 部	宮 崎 市	農政企画課 担い手対策係	中部農林振興局 （中部農業改良 普及センター）	地域支援課 地域振興担当	(0985) 30-6121	宮崎中央地区本部	営農部 営農企画課
	国 富 町	農林振興課 管理係					
	綾 町	農林振興課 農政係				綾町地区本部	生産指導課
南那珂	日 南 市	農政課 農業振興係	南那珂農林振興局 （南那珂農業改良 普及センター）	地域支援課 地域振興担当	(0987) 21-9550	はまゆう地区本部	営農部 農業振興課
	串 間 市	農業振興課 農政企画係				串間市 大東地区本部	営農課
北諸県	都 城 市	農政課 担い手対策担当	北諸県農林振興局 （北諸県農業改良 普及センター）	地域支援課 地域振興担当	(0986) 38-1554	都城地区本部	営農企画室 地域営農振興課
	三 股 町	農業振興課 農政企画係					
西諸県	小 林 市	農業振興課 農政畑かんグループ	西諸県農林振興局 （西諸県農業改良 普及センター）	地域支援課 地域振興担当	(0984) 23-5105	こばやし地区本部	農業企画室 農業企画課
	高 原 町	農政林務課 農政企画係					
	え び の 市	畜産農政課 担い手対策係				えびの市地区本部	担い手支援課
児 湯	西 都 市	農林課 農業創生係	児湯農林振興局 （児湯農業改良 普及センター）	地域支援課 地域振興担当	(0983) 43-2311	西都地区本部	営農部 営農支援課
	高 鍋 町	農業政策課 農政企画係					
	新 富 町	産業振興課 農林水産係				児湯地区本部	農産販売部 営農企画課
	西 米 良 村	農林振興課 農林業振興					
	木 城 町	産業振興課 農政係					
	川 南 町	産業推進課 農政園芸係				尾鈴地区本部	農産園芸部 営農支援課
	都 農 町	産業振興課 農業企画推進係					
東臼杵	日 向 市	農業畜産課 農業振興係	東臼杵農林振興局 （東臼杵南部農業改 良普及センター）	地域支援課 地域振興担当	(0982) 68-3100	日向地区本部	営農販売部 営農企画課
	門 川 町	農林水産課 農政係					
	諸 塚 村	産業課 農政係					
	椎 葉 村	農林振興課 農業振興グループ					
	美 郷 町	農林振興課 農政担当					
	延 岡 市	総合農政課 地域農業係	東臼杵農林振興局 （東臼杵北部農業改 良普及センター）	地域農業 支援課 地域支援担当	(0982) 32-3216	延岡地区本部	営農経済部 営農振興課
西臼杵	高 千 穂 町	農林振興課 農業振興係	西臼杵支庁 （西臼杵農業改良 普及センター）	地域農業 支援課 地域支援担当	(0982) 72-2158	高千穂地区本部	企画管理部 総合企画課
	日 之 影 町	農林振興課 農政係					
	五 ヶ 瀬 町	農林課 農業振興グループ					

※農業協同組合については、機構改革により変更予定の名称を記載しています。

豊かな農業経営・新しい未来のために

発 行
総合窓口

宮崎県新規就農相談センター

（公社）宮崎県農業振興公社

〒880-0913 宮崎市恒久1丁目7番地14

電話 0985 (51) 2011 FAX 0985 (51) 8006

